

【専門教育科目/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護教育論	NSP44_006	選択	1	4	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
平尾 真智子	410	m.hirao	月曜日～金曜日 12:10-13:00		
授業の目的・概要	学生自身の受けてきた教育をとおし、教育とは何かについて考え、高等教育の原点としての主体的学習の意義と重要性を理解する。それを受け看護師養成教育と看護継続教育の変遷と現状・法的基盤についての知識を得ると共に、看護学教育のカリキュラム、教育方法、学習方法、授業評価について理解し、日本における看護学教育のこれからのあり方について同時双方向型授業で学ぶ。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	学生自身の受けてきた教育体験を振り返り「教えることと学ぶこと」について考える。併せて現在学んでいる本学のカリキュラム構成・内容の理解を深め自身のキャリア形成について考える。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。				
参考書	看護教育学/ グレグ美鈴、池西悦子 編集/南江堂/2018 ケアの本質/ミルトン・メイヤー、田村真也訳/ゆみる出版/1987				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	高等教育に必要な教育の本質について理解する。			NS(1)	
②	看護教育制度の特徴と看護職の役割拡大について理解する。			NS(1)	
③	看護教育におけるカリキュラム構成、教育方法・評価について理解する。			NS(4)	
④	わが国におけるこれからの看護教育について考える。			NS(4)、NS(5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	教育の概念と高等教育 1. 教えることと学ぶこと 2. 看護教育学とは何か	講義	過去に受けた教育体験から印象に残った場面を取り上げ教育とは何かについて考えて参加する	3	
2	看護教育制度 1. 看護教育制度の変遷 2. 看護教育制度の現状	講義	配布した資料を予復習すること。	3	
3	看護職者の卒後教育と継続教育、役割拡大 1. 看護における生涯教育の位置づけ 2. 卒後教育の必要性和現状	講義	配布した資料を予復習すること。	4	
4	看護学教育の基盤 1. アイデンティティ 2. クリティカルシンキング 3. リフレクション 4. キャリアマネジメント	講義	左記1～4の用語について調べて出席する。	4	
5	看護学教育のカリキュラム・教育方法・教育評価	講義	本学部のカリキュラムの特徴について考えて出席する。	4	
6	臨地実習における教育と学習 1. 看護学実習における臨地実習の位置づけ 2. 臨地実習で直面しやすい問題	講義	臨地実習において直面した問題や学習の特徴についてまとめて出席する。	4	
7	看護教育の特徴と今後の課題	講義	配布した資料を予復習すること。	4	
8	各自の発表と全体討議・まとめ	演習	課題に対しまとめ発表し意見交換を行う。	4	
試	8回目のレポート発表で行う				

【専門教育科目/看護の統合と発展】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	50	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	30	10	0	0	40
	思考・推論・創造する力	0	20	10	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	10	0	0	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	レポート課題については開講後に開示し、全体の 50%で評価する。				授業内で評価を行う
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	講義や意見交換への取組みの姿勢、参加態度について全体の 50%で評価する。				授業内で総評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教 員 の 実 務 経 験	看護教員として 30 数年の教育・研究経験があります。						
実 践 的 授 業 の 内 容	看護教育の意義、現状、変遷、方法、課題の概要を講義し、将来の看護教育の在り方を考えることができるように事例を交えて具体的に授業を進めます。						
そ の 他	今後の新型コロナウイルス感染症の状況など、社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ます。						